

集う、学ぶ、つながるはチカラ。

開催要綱

命輝く平和な社会と障害児教育を今こそ！

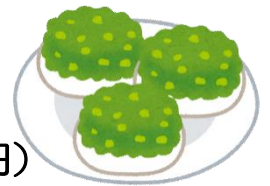
第18回全国障害児学級&学校 学習交流集会 in 宮城

期 日：2019年1月12日（土）
～14日（月）

会 場：全体会・分科会・講座・フォーラム フォレスト仙台
（仙台市営地下鉄 北四番町駅徒歩7分 JR仙山線 北仙台駅徒歩10分）

全体交流会 TKP ガーデンシティ仙台（AER仙台）
（仙台駅西口徒歩2分）

参加費：3,000円（一日のみ参加は2,000円、
フォーラムのみ参加1,000円 保護者・学生は500円）



12日 (土)		12:00	13:00～17:00	18:30～
		受付	開会全体会 現地企画 記念講演 藤井 克徳 氏	全体交流会
		フォレスト仙台		ガーデンシティ仙台
13日 (日)	9:30～11:30	12:30～17:00	18:00～or18:30～	
	・てんこ盛り講座 ・文化バザール		・基礎講座 ・旬の実践分科会	交流会(各県ブロック・ 青年・障害児学級)
フォレスト仙台				
14日 (月)	9:30-12:00			
	教育フォーラム			
	フォレスト仙台			

主催：全教障害児教育部・教組共闘連絡会・現地実行委員会
【お問い合わせ】TEL 03-5211-0123 FAX 03-5211-0124

1 / 1 2 (土)

全体会 13:00~17:00

- ◇ オープニング
- ◇ 実行委員長あいさつ
- ◇ 現地企画

- ◇ 現地あいさつ
- ◇ 基調報告

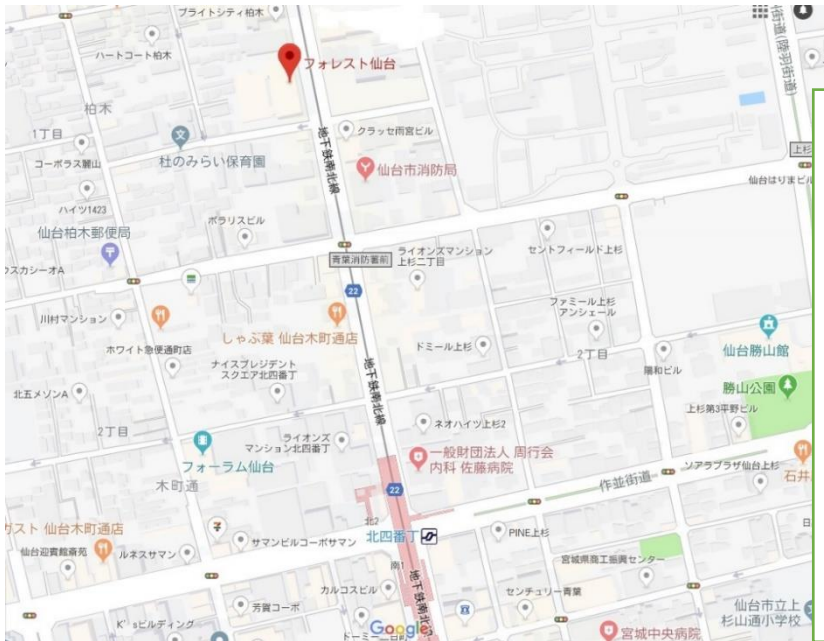


◇記念講演

「障害のある人が人間らしく生きるには」

～憲法と障害者権利条約を生かして～

藤井克徳さん (JD 日本障害者協議会代表)



◇全体会会場 概略図

- 地下鉄ご利用の場合 南北線「北四番丁駅」下車「北2出口」より、徒歩約7分
- JRご利用の場合 JR 仙山線「北仙台駅」下車、徒歩約10分
- バスご利用の場合 JR 仙台駅周辺のバス停より北仙台方面行き乗車「堤通雨宮町」下車 徒歩2分
⇒仙台市営バスのりば 13番・14番(西口バスプール)
⇒宮城交通バスのりば 4番・6番(西口バスプール)
- 仙台空港から仙台駅 仙台空港アクセス線 仙台空港駅発一仙台駅着(25分)



全体交流会 18:30~

- 会場：TKP ガーデンシティ 仙台 (AER 仙台)
- 仙台市青葉区中央 1-3-1
- TEL: 022-200-2611
- 仙台駅西口徒歩2分、地下鉄東西線・南北線 仙台駅北7出口より徒歩3分です



てんこ盛り講座・文化バザール・分科会・フォーラム(1/13・14)

全体会の会場と同じくフォレスト仙台で行います

てんこ盛り講座(1/13) 9:30~11:30

講座名	講師
わくわくどきどき楽しい国語	東 哲哉 さん(京 都)
わくわくどきどき楽しい算数	吉田 薫 さん(東 京)
障害の重い子の発達を学ぶ	竹脇 真悟 さん(埼 玉)
青年期のキャリア教育を考える	白瀬 美弘 さん(東 京)
医療的ケアを考える	菅井 裕行 さん(宮教大)
改訂学習指導要領を考える	河合 隆平 さん(金沢大)
性教育を学ぼう	間賀田清子 さん(神奈川)
障害児学級での授業づくり・学級づくり	福田 洋子 さん(京都&全教学級事務局)
東日本大震災から学ぶ ～震災学習からFプロジェクト。中学生の可能性～	瀬成田 実 さん(宮 城)

特別分科会(1/13) 9:00~16:00(一日開催)

講座名	講師
(特設)被災地をめぐるフィールドワーク 一日開催となります。朝、仙台駅観光バスプールに集合して 夕方まで現地を視察するフィールドワークです。	菊池 英行 さん(宮 城) 定員40名 参加費2500円(予定) 昼食代が別途かかります
東日本大震災から間もなく8年目を迎えるこの学習交流集会。最大の犠牲者を出した石巻地区をまわるフィールドワークを企画しました。参加者それぞれの地域における障害児者の防災とは何か、問い直すきっかけにしてみられればと思います。	



文化バザール(1/13) 9:30~11:30

講座名	講師
子どもが笑顔になるマジック講座	佐藤 比呂二さん(東 京)
簡単な和菓子づくり(定員30名 材料費300円)	佐藤 由紀子さん(宮 城)
おりぞめを楽しもう(定員10名 材料費200円)	船迫 新治 さん(宮 城)
coppa!~木でヘンテコな生き物を作ろう! (定員30名 材料費500円)	佐野 美里 さん(宮 城)

基礎講座(1/13) 12:30~17:00

	講座名	講師
前半	子どものからだと発達	岩倉 政城 さん(尚絅大)
後半	震災復興と教育	制野 俊弘 さん(和光大)



旬の実践分科会(1/13) 12:30~17:00

旬の実践分科会	共同研究者
1・2, 障害児学級での教育実践 「できることを増やす」「行動を矯正する」ことが障害児学級の仕事ではありません。学級集団を大事にし、その中で対人関係の力を育むこと、子どもが目を輝かせてとりくめる教材や文化的とりくみを用意すること、その2つの視点をもとに学びあいましょう。	

1, 障害児学級での教育実践 A (小学校のレポート)	越野 和之さん (奈良教育大)	
井上 美子 (東京)「生活や育ちに困難を抱える子どもたちとの国語の授業」 ～絵本の読み取りを通して、感じたこと・考えたことを言葉にしてみよう～ 佐藤 晶子 (宮城)「『本当のぼくになれました』3年間のA君の成長」～個別の支援の工夫を通して～ 文珠四郎悦子 (大阪)「なかよし学級で共に過ごすことで」～なかよし集会を通してつながる子どもたち～		
2, 障害児学級での教育実践 B (小学校のレポート1本・中学校のレポート2本)	山下 洋児さん (東京)	
田中 豊一 (北海道)「何故、互いに責め合うのか」～感情をぶつける言葉から、伝え合う言葉へ～ 谷田 三枝子 (広島)「仲間とともに学び合い高め合う3年間 ～中学校特別支援学級の取り組み～」 廣瀬 真理恵 (宮城)「買い物体験をしよう」～市場や商店などの流通の仕組みを模擬体験する中で 金銭の流れや買い物についての知識を身につける取り組み～		
3, 通常学級・通級指導教室の教育実践	宮本 郷子さん (龍谷大)	
通常学級にいる発達障害の子どもたちの内面に寄り添い、一人一人が生き生きとした学校生活を送れることを目指した実践を深めていきたいと思えます。通常学級や通級指導教室の実践をレポートしてもらいます。		
廣門 明子 (埼玉)「笑顔を見せてよ ～あおぞら教室の子どもたち～」 足利 真紀 (東京)「オレ、ここでだったら できるんだ」～つくし教室が「心の支え」になること～ 尾崎 由美子 (和歌山)「一人一人に応じた効果的な支援の在り方」～通級指導教室での実践等から考える～		
4, 視覚障害児の教育実践	江口美和子さん (明星大)	
視覚に障害のある子どもたちは、単一障害から重複障害までさまざまです。幼児教育から専攻科の指導、寄宿舎の生活教育など、幅広い実践を通して視覚障害教育で大切にしたい視点や専門性を深めます。		
崎山 麻里 (和歌山)「生徒の中にこそある子どもの育ちを伝えることと障害受容」 ～暮らしの視点で支える親教育～ 長崎 勤 (長野)「視覚障害の事故防止に向けたとりくみ」		
5, 聴覚障害児の教育実践	竹沢 清 さん (あいち障害者センター)	
障害の早期発見、補聴器性能の向上は、インクルーシブ教育の流れと相まって聴覚障害児の就学に大きな影響を与えています。地域に学ぶ子どもたちの支援や指導のあり方、小規模校における専門性の継承発展と共に実践の改善・工夫、発達保障が求められています。		
橋本 良子 (大阪)「聴覚支援学校幼稚部における授業づくり」～重複障害児学級の実践から～ 照井 恵理 (滋賀)「聾学校における集団と子どもたちの育ちを考える」～お米作りの実践を通して～ 角 哲郎 (滋賀)「聴覚に障害のある子どもたちにとっての学びの場を考える」 ～今後の学校づくりと発達保障運動に向けて～ 結城 郁夫 (宮城)「宮城の聴覚支援学校の現状と課題」 ～県内寄宿舎設置校の動向及び震災復興状況等～ 青山 敬 (岡山)「進路を切り開くキャリア教育」～岡山におけるキャリア教育の現状と課題～		
6, 病弱の子どもたちの教育実践	栗山 宣夫さん (育英短大)	
病院の医療の中で生きる最重度の子ども、病気治療のために院内学級で学ぶ子ども、身体面は健康でも、情緒面の障害のために病弱養護学校で学ぶ子ども・・・。 「病弱教育」の対象は本当に多様ですが、「子どもの気持ちを最大限尊重する」ことを大切に にした教育実践が学べる場でもあります。		
齊藤 久美子 (滋賀)「入院中の子どもたちが通う学校で大切にしたいこと」 ～子どもたちのつばやきから～ 小形 奈美 (宮城)「で、三浦君はどうしたいの？」 ～卒業後の生活 施設か在宅か病院か・・・悩む担任、迷う母、本人はのほほん～ 橋本 千萌 (神奈川)「彼女と私の第一歩」～寄り添う中で育まれる信頼関係～		
7, 発達の遅れと授業づくり・教育課程づくり ア) 最重度と言われる子どもたち	河合 隆平さん (金沢大)	
心の動きが見えにくいとされる最重度と言われる子どもたちの内面をどのように捉え、教育課程を作り、授業を作っていけば良いのか、お互いの実践から学び合いましょう。		
秋山 登志夫 (静岡)「学習に向かう身体づくり・集中できるこころづくり」 ～肢体不自由児童・生徒の姿勢変化や姿勢支援を通して～ 青木 志保 (高知)「せんせい、ぼくのはなしきいて」～世界を広げていくTくんに寄り添って～ 竹脇 真悟 (埼玉)「障害の重い子どもを求め安心する関係の中で育つ」 ～友だちとともに学ぶおはなしの授業～		

8, 発達の違いと授業づくり・教育課程づくり イ) ことば獲得期～教科入門	
自我の芽生えから拡大、言葉を獲得し、イメージを豊かに広げ、書き言葉に向かうというそれぞれの段階において、心に響く文化をどう用意するか、育ち会う集団をどう保障するか等々、人格を豊かに育てていくための授業・教育課程づくりについて考えあいましょう。	櫻井 宏明さん (埼 玉)
猿渡 聡美 (岐 阜)「生活単元学習『むかしのあそび』がおもしろい!～小3生単の「校外学習」～ 櫻井 千栄 (愛 知)「涙の卒業式」 木村五十鈴 (京 都)「おもしろーい!見ててーよ」～S君の中にある思いを探って～	
9, 自閉症・自閉的傾向の子どもたちの授業づくり・教育課程づくり (小)	
一部を強調した TEACCH や視覚支援。パターンにはまれば一見「うまくいく」ように見える自閉症の子どもたちをまるごととらえ、障害特性を越えた支援のあり方と、一人ひとりの発達する姿を確かめ、参加者のみなさんで深めましょう。	三木 裕和さん (鳥取大)
市橋 ひろ子 (北海道)「『できるようになる』とはなにか」～集団で学ぶ、セイちゃんのことを中心に～ 岡田 徹也 (滋 賀)「“安心と納得”を土台に不安と一緒に乗り越える」～小学部低学年期の教育実践～ 松本 亜沙子 (神奈川)「安心して過ごせるクラスを目指して」～小学部の子どもたちが教えてくれたこと～	
10, 自閉症・自閉的傾向の子どもたちの授業づくり・教育課程づくり (中・高)	
思春期を迎え、自閉的傾向が強くなったり強度行動障害が顕在化したりして、学校生活を心地よく過ごせない子どもたち。こうした困難を抱える子どもに寄り添い、どう授業を展開したらよいか、どんな学校にしたらよいかを考えていきます。	別府 哲 さん (岐阜大)
阪倉 季子 (滋 賀)「教室に『自由』と『文化』を!」 重久 和仁 (東 京)「太郎くんのこだわりとこれから」 掛橋 佐和 (高 知)「トンネルの向こうに光が見える」	
11, 青年期の課題と授業づくり・教育課程づくり	
自分を表現するのが苦手、不登校を経験するなど困難な生活経過を経て高等部に入ってくる生徒たちに対して、内面に寄り添い心を開いていく取り組み、教科学習や行事、文化にふれる中で自分のいいところに気づき自分なりの表現方法と自己実現を模索する取り組み。卒業後を見据えた実践などを報告します。	田中 雅子さん (東 京)
中村 一弘 (埼 玉)「高等部(知的)の授業実践、文化祭ステージ発表での群読の取り組み」 市位 葉子 (兵 庫)「発達障害児者の思春期・青年期を追って ～多様な進路選択への寄り添い～」 沖本 直稔 (山 口)「不安をなくし、人とつながる」～社会性を身に付けるために～	
12, 性教育の実践	
すこやかな発達の証である性の発達と成長を、障害児自身も周囲も喜んで迎えられるよう、リアルな実践報告や教材交流を通してともに学びあいましょう。	間賀田清子さん (神奈川)
瀬野 史織 (東 京)「性教育ははじめました～子どもたちにキラキラ輝く人生を!～」 坂戸 千明 (長 野)「性教育って楽しい!」 木村 光那 (神奈川)「はじめて取り組んだところからだの授業実践」	
13, 子どもの生活を考える (寄宿舎)	
社会の情勢とからんで家庭の養育困難や生活基盤が揺らぐなかで、寄宿舎は家庭を支え、子どもたちの成長・発達の一翼を担っています。幅広い方とともに寄宿舎の意義や役割を語り合いましょう。	中村 尚子さん (立正大)
清水 たけみ (山 梨)「大人の階段を上り始めた Tさん その言動から子どもを理解するとは」 松谷 茂樹 (和歌山)「O. Tくんの自信獲得大作戦」 吉村 実華 (京 都)「ケントのねがいを探して・・・」	

各県・ブロック別交流会

各県・ブロック別に計画中

青年交流会・障害児学級交流会

フォレスト仙台内の会議室にて計画中

教育フォーラム(1/14) 9:30~12:00

フォーラム名		主な対象	コーディネーター パネラー・講師
1	高等学校における 特別支援教育を考える	障害児学級・ 障害児学校・ 小・中・高の教職員	土方 功 さん(全教) その他、高校の教員を予定
2	とっておきの 授業づくり・学校づくり	すてきな実践を 聞きたい方	尾崎 和行 さん(青森) 櫻井 宏明 さん(埼玉)
3	改訂学習指導要領を考える	障害児学級・ 障害児学校の教職員	三木 裕和 さん(鳥取大) 河合 隆平 さん(金沢大) 佐竹 葉子 さん(全教)
4	震災と特別支援教育	障害児教育に 携わる方	大野 健志 さん(きょうされん) 戸田 祥子 さん(保護者) 菅原 俊浩 さん(宮城 教員) 谷野 通子 さん(福島 元教員)

参加のお申し込みについて

1、参加の申し込み方法について

- ※ 所属されている各組に、裏面の申し込み用紙にてお申し込みください。
- ※ 個人で申し込まれる方は、全国実行委員会に、裏面の申し込み用紙にてお申し込みください。
- ※ 各組織は参加者をまとめ、所定の用紙(各組織に別途送付いたします)にて全国実行委員会までご報告ください。申し込み先は、下記のお問い合わせまでお願いします。
- ※ 全体会、分科会等で手話通訳を希望される方は事前にお申し出ください。
- ※ 定員のある講座は先着順です。参加申込書の備考欄および参加希望書にご記入ください。

2、参加費について

- 集会参加費

全日程	3,000円
12日もしくは13日のみ	2,000円
教育フォーラムのみ	1,000円
学生・保護者	500円
- 交流会費(12日) 6,000円
- 今回の集会はお弁当の販売はありません。会場周辺で各自お願いします。

3、宿泊について

- ※ 宿泊は、各自で確保をお願いします。仙台駅周辺にはホテルがたくさんありますが、繁忙期のため早めの確保をお願いします。

4、交流会(12日)について

- ※ 手配の関係がありますので、最終のお申し込みは12月21日(金)までにご報告ください。
- ※ 12月25日(火)以降のキャンセルはできません。申し訳ありませんが、全額をお支払いいただくこととなりますのでご注意ください。

5、申し込み(報告)の締切について

- ※ 12月21日(金)【参加者名簿を作成しますので、可能な限りここまでにご報告ください】
- ※ ただし、集会への参加は当日まで受付いたします。

6、参加費のお支払い

- ※ 集会当日、受付にて申し込み組織・個人ごとにお支払いください。

7、お問い合わせ(全国実行委員会・全教障教部)

- TEL (03) 5211-0123 / FAX (03) 5211-0124
- 担当 佐竹 青木

全国障害児学級・学校学習交流集会 参加申込用紙

申込用紙に記載のうえ、各組織・団体本部にお送りください。

(個人で参加を希望される方は、直接この用紙で下記の全国実行委員会までお送りください)

お名前	性別	所属組織・学校
TEL ※連絡のとれる電話番号をご記入ください。	E-mail	
手話通訳の希望	有	無

■ 参加内容 (該当する箇所に○印および金額を記入してください)

	1/12 (土)	1/13 (日)	1/14 (月)	金額	備考 (定員のある講座の記入など)
参加日程				円	
全体交流会		—	—	円	6,000円 (12日開催)
			合計	円	参加費 3,000円、12日 or 13日のみ 2,000円 教育フォーラムのみ 1,000円、父母等 500円

1、参加の申し込み方法について

※ 所属されている各組合に、この申し込み用紙にてお申し込みください。

※ 組合などに所属せず、個人で申し込まれる方は、全国実行委員会にこの申し込み用紙にてお申し込みください。申し込み先：FAX (03) 5211-0124

※ 全体会、分科会等で手話通訳を希望される方は、申し込みの際にお申し出ください。直前には対応できない場合があります。

※ 定員のある講座は先着順です。参加申込用紙の備考欄と裏面の参加希望書に必ずご記入ください。

2、宿泊について

※ 宿泊は、各自で確保をお願いします。また、早めの宿の確保をお願いします。

3、交流会 (12日) について

※ 手配の関係がありますので、最終のお申し込みは12月21日 (金) までにご報告ください。

※ 12月25日 (火) 以降のキャンセルはできません。申し訳ありませんが、全額をお支払いいただくこととなりますのでご注意ください。

4、申し込み (報告) の締切について

※ 12月21日 (金) 【参加者名簿を作成しますので、可能な限りここまでにご報告ください】

※ ただし、集会への参加は当日まで受付いたします。

5、参加費のお支払い

※ 集会当日、受付にて申し込み組織・個人ごとにお支払いください。

6、お問い合わせ (全国実行委員会・全教障教部)

■ TEL (03) 5211-0123 / FAX (03) 5211-0124

MAIL a_aoki@educas.jp

担当：佐竹、青木

参加希望書

特別分科会

被災地をめぐるフィールドワーク参加申込書（定員40名 先着順です）

お名前	性別	所属組織・学校
TEL ※連絡のとれる電話番号をご記入ください。	E-mail	
その他備考欄	女川丼（海鮮丼） 希望される方は右に ○を付けてください	

※学習交流集会の参加費とは別途で、バス代で2500円（予定）を徴収いたします。

※昼食は希望する方に女川まちなか交流会館で女川丼（1300円）を用意します。

昼食代は別途、現地でお支払ってください。

※朝9：00に直接、仙台駅東口の観光バスプールに集合してください。

文化バザール

※希望するバザールの番号に○を付けてください

2：簡単な和菓子づくり（定員30名 材料費300円）

3：折染めをしよう（定員10名 材料費200円）

4：coppa！～木でヘンテコな生き物を作ろう！（定員30名 材料費500円）

お名前	性別	所属組織・学校
TEL ※連絡のとれる電話番号をご記入ください。	E-mail	
その他備考欄		

お問い合わせ先（全国実行委員会・全教障教部）

■ TEL (03) 5211-0123 / FAX (03) 5211-0124

MAIL a_aoki@educas.jp 担当：佐竹、青木